

提出された意見の概要とそれに対する市の考え方

案 件 名：第二次あきる野市環境基本計画（案）

募 集 期 間：平成28年1月15日（金）～平成28年1月29日（金）

意見等提出件数：3件（提出者1名）

第二次あきる野市環境基本計画（案）に対する意見募集にご意見ありがとうございました。

以下のとおり、ご意見の概要と市の考え方について、ご紹介させていただきます。

項 目	意見の概要	市の考え方
開発計画と環境施策の関連性について (全体)	P. 34の(エ)に生物多様性保全上の農地の重要性について記されているが、武蔵引田駅北口土地区画整理事業は企業誘致を核として進められようとしており、環境的な側面から、調査・検討されているのか疑問である。秋川高校跡地で企業誘致ができていない状況も考慮し、環境側面から、「開発」優先の計画見直しが必要ではないか。	本計画におきましては、生活環境分野の方針として、「快適で緑あふれる循環型のまちの創出」を掲げており、自然環境と調和し、誰もが快適に暮らせるまちづくりを進めることとしております。 武蔵引田駅北口土地区画整理事業につきましては、こうした考え方を基本に、地権者の意向に沿い、集合農地街区を形成するとともに、公園を歩道で結ぶ緑のネットワークの構築などによる市街地における緑の確保のほか、産業の誘致や防災機能の向上などを図り、住・商・工・農のバランスの取れた市街地形成を進めてまいります。 また、幹線道路となる秋3・5・2号線道路整備事業につきましては、横沢入里山保全地域の保全等と並行して進めることとしており、事業として具体化する際には、環境に配慮した工法の選定などを検討してまいります。
道路整備計画の見直しについて (全体)	数十年前に計画された道路整備計画の中には、生物多様性保全の観点から、大きなマイナスになるものも見受けられる。 秋3・5・2号線の整備事業を進めた場合、大量の樹木の伐採などが予想され、横沢入や大悲願寺といった貴重な里山や歴史的建造物への影響が懸念される。こうしたことは、観光面にとってもマイナスになるのではないか。	河川整備における生物多様性への配慮については、本計画の分野別計画である「生物多様性あきる野戦略」P. 126においても、「生物多様性に配慮した工法を選択するなどの取組を進める」こととしております。 一方、深沢川のように、崖線と河川とが一体となっている場合においては、同戦略P. 128に示すとおり、住民生活の安全性の確保が前提となりますので、これらの考え方を基本に、庁内関係部署や東京都との情報交換や意見交換を進めながら、総合的に判断してまいります。
砂防・護岸工事の必要性や工法について (P. 34)	P. 34の(オ)に示される「河川に関する取組」では、生物多様性保全の観点から、砂防・護岸工事の必要性の検証や工法の選択についても取り組んで欲しい。 深沢川の工事で、希少種であるミゾゴイの営巣地が失われてしまった反省から、市役所内部や東京都との情報交換を蜜にし、既存計画の見直しも含めた検討を行ってほしい。	河川整備における生物多様性への配慮については、本計画の分野別計画である「生物多様性あきる野戦略」P. 126においても、「生物多様性に配慮した工法を選択するなどの取組を進める」こととしております。 一方、深沢川のように、崖線と河川とが一体となっている場合においては、同戦略P. 128に示すとおり、住民生活の安全性の確保が前提となりますので、これらの考え方を基本に、庁内関係部署や東京都との情報交換や意見交換を進めながら、総合的に判断してまいります。